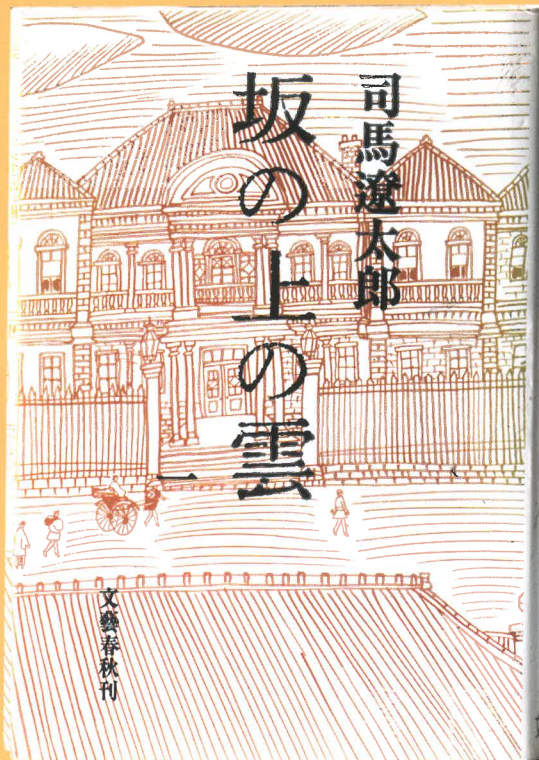


第16回企画展テーマ展示

『坂の上の雲』完結

50周年

未来へ 明治日本のリアリズム



明日のために
今できることを
問い続けた
小さな国のリアリズム

2023年2月21日(火)ー2024年2月12日(月)

休館日：月曜日(休日の場合は開館) 開館時間：午前9時ー午後6時30分(入館は午後6時まで)

観覧料：一般400円(320円) 高校生200円(100円) 高齢者(65歳以上)200円(160円)

※中学生以下は無料 ※()内は20名以上の団体割引料金

〒790-0001 愛媛県松山市一番町三丁目20番地 TEL089-915-2600 FAX089-915-3600

<https://www.sakanouenokumomuseum.jp/> E-mail:saka-museum@city.matsuyama.ehime.jp

坂の上の雲ミュージアム

SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM

『坂の上の雲』完結50周年

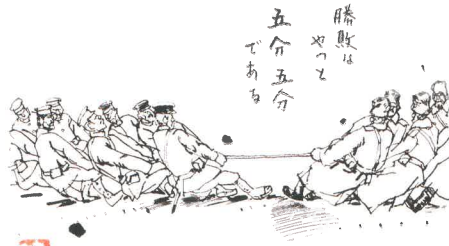
第16回企画展テーマ展示

明治日本のリアリズム 未来へ

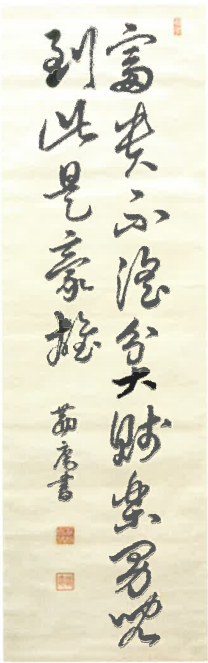
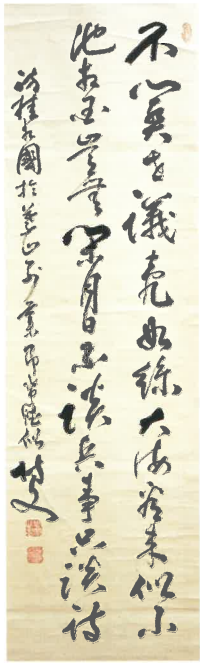
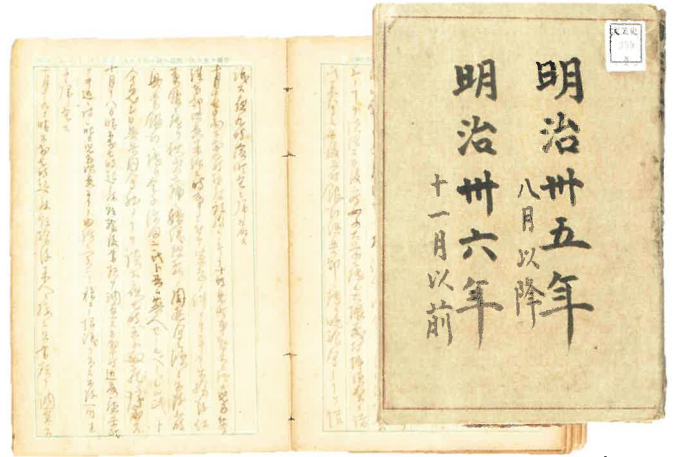
生まれたばかりの近代国家、明治日本において、人びとは何を考え、どのようなふるまったのでしょうか。

日本は西洋をモデルにした憲法や国会をつくり、わずか30年ほどの間で近代化を押し進めていきます。

1904(明治37)年にはじまる日露戦争では、政治、軍事、外交などあらゆる面で、自らの目や耳で得た情報をもとに、冷静に現実を見つめ、なすべきことを着実に実行していきます。



小説『坂の上の雲』は、1968(昭和43)年4月22日から1972(昭和47)年8月4日まで、「産経新聞(夕刊)」に連載されました。完結50周年となる今回の企画展では、明日のために今できること、を問い続けた小さな国のリアリズムを、事象と人物の両面から描き出します。



※会期中、資料の展示替えをおこないます

1. 渋沢栄一日記 明治35~36年(国文学研究資料館所蔵)
2. 懐中時計 伝 渋沢栄一使用(渋沢史料館所蔵)
3. 伊藤博文書(山口県光市伊藤公資料館所蔵)
4. 高橋是清書(今治市河野美術館所蔵)
5. 秋山好古のデイベイター(愛媛県生涯学習センター所蔵)
6. 児玉源太郎の中国製水煙具(周南市美術博物館所蔵)
7. 大山廠の冬外套(個人蔵/陸上自衛隊宇都宮駐屯地防衛資料館保管)

挿絵・原画：下高原健二(石川武美記念図書館所蔵) 表面：司馬遼太郎『坂の上の雲』第1巻(文藝春秋/1969年)

坂の上の雲ミュージアム

SAKANOUENOKUMOMUSEUM

〒790-0001 愛媛県松山市一番町三丁目20番地 TEL 089-915-2600 FAX 089-915-3600
E-mail:saka-museum@city.matsuyama.ehime.jp URL:https://www.sakanouenokumomuseum.jp/

- | | | | | |
|------|----------------------------|-----------------|---------|------|
| アクセス | ・JR松山駅から [所要時間約10分] | 市内電車(道後温泉行)—— | 大街道下車—— | 徒歩2分 |
| | ・道後温泉から [所要時間約10分] | 市内電車(全線)—— | 大街道下車—— | 徒歩2分 |
| | ・松山空港から [所要時間約30分] | リムジンバス(道後温泉行)—— | 大街道下車—— | 徒歩2分 |
| | ・松山観光港から [所要時間約30分] | リムジンバス(道後温泉行)—— | 大街道下車—— | 徒歩2分 |
| | ・松山自動車道松山インターから [所要時間約20分] | | | |

